

平成27年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立八女農業高等学校長 印

NO. 1

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)			
学校運営方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指し、農業の意義や役割の理解と、「農業に関する将来のスペシャリスト」として必要な専門知識・技術を習得させる。 校訓「自律・創造・協同」を旨としながら、より良い校風の樹立に努め、「厳しきや苦しきに耐える自律心」、「感謝と思いやりの心」、自己実現のため必要な「創意工夫する創造力」を育成し、農業及び地域産業並びに地域社会の発展と活性化に貢献できる人材づくりを目指す。	A			
昨年度の成果と課題	27年度の重点事項 生徒の制服等の身だしなみは大幅に改善された。また、積極的な地域連携を推進し、一定の評価を得ることができた。引き続き生徒の交流支援を積極的に行っていく。27年度は、中学校に対し生徒募集に向けたPR活動を行う。さらに本年度も卒業生全員の進路実現を目指す。	具体的目標			
	確かな学力を育成し、農業に関する将来のスペシャリストとして必要な専門知識・技術を習得させる。	○学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、日常の授業に対して熱心に取り組む態度を育成する。○安心して授業に取り組む学校環境を作る。			
	生徒一人一人を見据え、学習への積極的な取組と活性化を実現するため、「基礎・基本学習の徹底」を図る。	○教科・科目全領域において基礎学力の定着と充実に向け、授業の工夫改善を図りきめ細かい指導を行う。○少人数クラス、習熟度別学習の充実を図り、生徒一人一人の学習能力向上に努める。			
	自律心と思いやりのある心豊かな人間形成に向けた取組を推進し、人権意識の向上やいじめの撲滅を目指す。	○挨拶等の礼儀作法、時間厳守、掃除の徹底、服装等の基本的生活習慣の確立に向けた指導を全職員で取り組む。○全職員の情報網を活性化していじめの発生防止に取り組む。また、スクールカウンセラーを活用して、いじめの早期発見に努める。			
	学校の教育活動全般において、人として正しき判断し、行動できる生徒を育成する。	○生徒会活動及び農業クラブ活動の活性化を図り、農業高校の特色を活かした取組をとおして実践力のある生徒を育成する。○部活動加入を推進し、併せて学校活性化を図る。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	
学校経営	特色ある教育課程を編成し、学校教育システムの機能化を図る。	企画運営委員会を中心に、各分掌の連携を図る。	B	A	各分掌が抱える問題点を明確にして、改善を図るとともに、生徒を中心とした学校改革を推進する。 募集定員確保に向け、広報活動の充実に加え、平成27年度実施した新たな取組を検証し、より効果的な内容にする。
	危機管理体制を強化する。	危機管理マニュアルを徹底し、非常時の危機管理に対する意識向上を図る。 教職員の不祥事防止に向け、研修会等を積極的に開催する。	A		
	学科の教育内容・指導方法の充実を図る。	教育内容の充実に向け、八女農アクションプランの実現を目指す。 地域・外部機関との連携を推進し、学科の教育内容を充実する。	A		
進路指導	担任・学年・学科との情報共有化を図り、生徒一人ひとりの進路実現を援助する。	3学年担任との会議を週に一回実施して全員の進路実現を達成する。 学年・学科と情報交換を行い、連携して進路実現を図る。	B	A	進路では、生徒自身が自らを見つめ、希望を描き、主体的に自己を高めていく力が必要であり、3年間の進路計画を練り直しながら自己実現に向けた力を育成していく。就職希望生徒が増加傾向にあるが、企業との信頼関係構築と求人票確保、希望職種への内定実現、一次内定率80%以上、年内での内定率90%以上を継続して達成できるように取り組みを進める。上級学校への進学者には基礎学力向上への取り組みを強化していく。
	指導体制の見直しと進路室の充実を図る。	進路指導部の進学・就職指導体制を見直し効果的な指導方法を検討する。 就職では、職員による企業訪問の実施や新規開拓求人確保に努める。 活用しやすい進路室づくりと利用マナーの定着に努める。	A		
	3年間を通じた進路計画の実施および指導内容の充実に努める。	計画的な進路行事の実施と内容の充実に努める。	A		
		「進路のしおり」の活用充実と内容充実に努める。 学年・学科と連携して早期の目標設定および意識づけに努める。 進路実現に向けた課外授業の実施及び資格取得を推進する。	A		
教科指導	学習意欲を高め、学力の向上を図る。	学期毎にシラバスを活用し、各科目の学習目標および学習内容、評価方法を理解させる。各学級にシラバスを配置し、生徒がいつでも確認できるようにする。 朝読書・学習により、基礎学力の向上を図る。考査前学習の定着。	A	A	落ち着いた学習環境になりつつある。学習の中身の充実を目指すべき時期である。授業を受ける態度、心構えをしっかりと自覚させ、基礎学力の定着を目指す。また、学ぶことの魅力をいかに伝えるかを各教師がさらに工夫していく。生徒の進路希望に即したカリキュラムへの検証は常に必要と考える。
	規律ある授業を実施する。	朝読書(SHR)、始業、終業時間を厳守し、規律ある授業を行う。 机、椅子の整理、整頓を行い、学習環境を整え、授業を開始する。	B		
	専門高校の特色を生かした教育課程について協議する。	新学習指導要領の完全実施を受けて、各学科の特色を生かしたカリキュラム編成を行う。 4年制大学(推薦入試を利用した国立大学農学部等)の指導を充実する。	A		
生徒指導	学校教育全般を通じて、生徒指導が実践できるように取り組む。	月に1度、風紀指導強化週間を設けて規範意識の高揚をはかる。	B	A	全職員の尽力により、風紀関係は規律を保つことができた。生徒会新聞は発行できなかったが、各種委員会・生徒会活動等活発に活動し、行事を成功させた。交通関係は事故が発生したので、今後も交通事故防止に取り組む。アルバイトは規約を制定した。今後、周知徹底を図る。来年度も、安心・安全な学校生活環境の創造に努める。
		月1回の全校集会・学科別集会での指導をする。	A		
		帰りのホームルームでの整理整頓と身だしなみをきちんとさせる。 全職員による、服装・頭髪・着こなし指導を充実させる。	A		
	生徒指導心得を充実させ、指導内容や方法を全職員が共通認識のもとに協力して指導できるようにする。(組織的、計画的、継続的指導)	生徒会による集会での主体的な活動を促進し、挨拶運動を推進する。	A	B	
		生徒会新聞を年に3回発行する。	C		
		各種委員会活動の活性化を推進し、生徒会行事を成功させる。 交通事故0をめざした活動を展開し、免許取得規定の徹底を図る。	A		
	アルバイトや免許取得における許可申請の徹底を図る。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
保健指導	生徒健康状態の把握・理解およびあらゆる領域での活用をめざす。	生徒および職員の健康状況の課題を理解し、改善に向けた取り組みを進めていく。	A	A	あらゆる場を活用し、「健康の重要性」を生徒に理解させ、意識して取り組ませることを重点課題とする。  生徒ひとり一人の訴え・変化を見逃さず、状況に応じて、個別相談、カウンセリングの活用を図る。  各学年・各クラスでの健康チェックシートを作り、日頃から健康維持に努めるよう指導する。
		あらゆる領域・あらゆる場を利用し、生徒へ（健康の意義や重要性）について正しく理解させ、改善に向けて支援していく。	A		
	安心・安全で快適な教育環境づくりおよび防災教育へのあらたな取り組み。	健康教育推進事業（スクールカウンセラー制度及び訪問相談委員制度）について、機会あるごとに生徒と保護者へ周知し、取り組みを充実させる。	A	A	
		教職員を対象とする研修会（発達障害等）を実施する。	A		
		防災教育に取り組み充実させていく必要がある。	B		
		校内美化の重要性について、生徒の意識高揚ならびに清掃活動の徹底を図る。	A		
		薬物乱用防止講演会の実施	A		
		保健委員会と美化委員会を活用した健康教育等を充実させていく取り組み。	A		
委員会活動（保健委員会・美化委員会）と健康教育の充実をめざす。	筑後地区生徒保健委員会への積極的参加および構内での活用を図る。	A	A		
	学校運営に係る企画・庶務全般の運営を円滑に行う。	A	A		
庶務・広報	式典・行事等の企画・立案及び円滑な運営を図る。	学校運営に係る資料の印刷・管理を正確に行う。	A	A	地元のラジオ局などと協力して情報発信できるようになりつつあるが、まだ不十分である。本校の特色ある教育活動を更にPRする必要がある。今後は各学科から情報を集めて、本校の情報発信の窓口として活動していく。
	P T Aとの連携を図り、P T A活動を円滑に行う。	総会・地区懇談会等の企画・立案及び円滑な運営を図る。	A		
	広報活動を活性化し、中学生や地域にアピールする。	各種委員会活動全般への支援を行う。	A		
		広報誌の発行、マスコミ等との連絡調整を行う。	B		
研修	職員研修全般の企画・立案及び円滑な運営を図る。	授業や生徒指導のスキルアップを目指し、校内研修を推進する。	B	A	飲酒運転撲滅・薬物乱用防止などの研修については、100%の出席率で実施することができた。その他の研修が行事等の関係で、実施時期に無理が生じたため、次年度検討する。 研究紀要「陽咩」の充実に尽力する。
		センター専門研修など外部からの研修案内を職員に周知徹底する。	A		
	研究紀要「陽咩」を発刊し、研修内容の充実を図る。	職員の校内・校外における研修の成果を記録し、共有して資質向上の一助とする。	B		
		研究紀要「陽咩」に、多くの先生方の成果を掲載し、意欲の喚起に努める。	B		
教育実習の受け入れに対し、的確な計画及び、サポートを行う。	教育実習の実施に伴う諸文書を、正確に取り交わす。	A	A		
	6月・9月の教育実習が、充実した取り組みになるよう取り計らう。	A			
第1学年	基本的な生活習慣を確立する。	時間を守らせ、すすんで挨拶できるように継続的に指導する。	A	A	2学年へ向け、進路への意識を高め、下級生の手本となれるよう、さらに規範意識を高めるよう努力する。
		学習習慣を確立できるように、教科担任との連携を密に図る。	A		
	進路目標を決定する。	進路情報を提供して意識を高めさせ、計画的な個人面談と、家庭との連携を図る。	A		
		各種検定・資格取得に向けて指導を継続的に行う。	B		
規範意識を高める。	正しい判断力を身に付けられるように、HRを通じて継続的に指導する。	A	A		
	校則特に、頭髪・服装については、指導部と連携して学年全体で指導する。	A			
第2学年	希望進路実現に向けて指導の充実を図る。	個人面談で実態を把握し、各生徒に対応したきめ細かな指導を行う。	A	A	3年次に向けて、学力・規範意識の向上をさせることで、進路実現のための力をつけさせる。また、進路の目標を明確にさせ進学・就職への取り組みを計画的にさせることで進路の達成率100%を目指す。
		進路情報の提供や進路講話を活用して意識の向上を図る。	A		
	学習環境を整備し授業に対して真剣に取り組む態度を育成する。	授業の遅刻・態度、成績等について、指導の強化を行う。	A		
		教室の環境を整える。	A		
基本的な生活習慣の確立に向けて指導を充実させる。	遅刻、欠席をしないように指導する。放課後指導して改善を図る。	B	B		
	適切な言葉遣いの指導を行う。	B			
規範意識の向上に努める	校則の順守の指導を行う。	A	A		
	いじめに対して、教科・学年・生徒指導部、保護者と連携を図り迅速に対応する。	A			
第3学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	服装・頭髪指導、挨拶の励行、言葉遣いの指導を徹底する。	A	A	国立大学進学希望者に対する指導は3年次に専門先生を中心に熱心に行っていたが、1・2年次の指導不足が結果に大きく影響したと思われる。就職も含めて早い時期に進路の目標を持たせることが重要である。
		校内美化活動の徹底	A		
	進路実現の取り組みを充実させる。	進路実現のため各種検定・資格取得を積極的に推進する。	A		
		国公立大学受験者への指導の徹底。	B		
学校行事への積極的な参加促進を図る。	生徒会活動・農業クラブ活動・八女農祭の企画運営。	A	A		
	部活動等において中心的な活動の充実。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
農務部運営	農業クラブ活動の推進	クラブ員の意識高揚を図る	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト発表、意見発表、農業鑑定競技の指導を各学科で組織的に行う。</li> <li>・あらゆる場面において学校のPRに努める。</li> <li>・今後も農場・実験室・実習室の環境整備に努め、整理整頓された場所で授業の展開を行う必要がある。</li> </ul>
		各種競技活動を推進する。	A		
	農業教育の理解と学校PR	学校理解・地域連携事業を充実する。	A	A	
		広報活動を推進する。	B		
農場施設設備・備品の改善と農場の環境整備の推進	インターンシップ事業を推進する。	A	B		
	機器・器具の整理・整頓及び有効活用、充実した備品の購入。	B			
生産技術科	教育内容の精選と充実	授業に活かせる農場・実験室・実習室の整備。	B	B	施設や実験機器の更新・充実に向けて継続的に取り組む。農場の整理・整頓に努め、外部にアピールできる農場作りを目指す。職業意識を高めるための個別指導(挨拶、授業規律等)を強化する。進学者(特に4年生大学)の指導を進路指導部と連携を図り組織的に行う。資格取得率の向上に向けて計画的に指導を行う。
		プロジェクト研究の充実を図る。(一人1テーマ)	B		
		生産から流通までの系統的学習を通じた経営教育を充実する。	A		
	地域に貢献できる教育活動の充実	実験・実習分析機器等の学習教材の充実を図る。	B	A	
		校外販賣実習の充実や小・中学生への体験授業等で地域に根ざす教育を実践する	A		
		農場の環境美化を積極的に行い、地域にアピールできる農場作りをめざす。	B		
希望進路実現に向けた組織的・系統的指導	進路研究(進路指導室の活用、情報収集、グループ活動等)を行う。	A	A		
	学科及び学年団と連携して定期的に進路指導(面談、面接指導)を行う。	A			
	職業資格の取得を積極的に支援する。	B			
システム園芸科	教育内容の充実、指導の工夫・改善を図る。	教科指導を通して先進農家、農業関係機関等との連携を図り、先進技術の知識や技能の向上に取り組む。	A	A	1年生から3年生までの課題解決学習の積極的な取り組みを行う。目標とする進路に向けて一人一人に的確な支援を行う。基本的生活習慣の確立に向けて学科全体で取り組む。資格取得の推進を積極的におこなう。
		農業生産物の充実と付加価値のある農作物生産を構築する。	B		
		プロジェクト学習を積極的に取り組み、学習意欲の向上を図ると共に自主性を身につけさせ、生徒の探求心を引き出させる。	A		
	基本的生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る。	毎時の授業において服装、頭髪、挨拶、言葉遣い及び時間厳守等の指導を行い、規律ある学校生活を送らせると共に欠席、遅刻、早退の改善を徹底させる。	A	A	
		遅刻、早退、欠席をした生徒には、居残り実習行いながら生徒とのコミュニケーションを図る機会とする。	B		
基礎学力及び学習意欲の向上を図る。	資格取得を積極的に取り組み、多くの取得を目指しスキルアップを図る。	B	B		
興味・関心を引き出す授業を展開する。	A				
生物利用科	学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成	プロジェクト学習の積み上げによる課題解決能力の育成と農業クラブ活動の充実。各種競技会で2個の最優秀賞を獲得する。	A	A	プロジェクト活動の定着と2年生でプロジェクト活動を導入する。 八女農ブランドの確立と新商品開発により農場予算の増収を計る。 北山農場の整備と公園化を図り、新しい動物を導入する。 学習内容のPR方法を再検討する。
		資格取得の推進と八女農ブランドの積極的な開発による農場予算の増収。	B		
	社会の一員としての生活指導と安全指導の充実・徹底	週1回の定例会議での情報の共有化を図り、教師間で生徒指導目線の一致。	A	A	
		インターンシップ事前指導の徹底と受入先の開拓。企業とのネットワーク作り。	A		
開かれた学校作りの推進と地域との連携・PR強化	北山農場における動物科学専攻施設の地域開放(動物園化)と出前授業・開放講座地域行事への参加等の意欲的な活動の定着。	A	A		
	HPや学校便り、生物利用科便り、道の駅や販売所のパネルで積極的に発信し、生物利用科の取り組みや学習内容を地域に理解させる。	B			
生活科学科	農業分野・フードデザイン分野・ヒューマンサービス分野の充実発展を図る	地域に学び連携するため体験交流学習や外部講師による授業を導入する。	A	A	地域の機関と連携や、社会人特別講師の授業を受けることで、より専門性の高い内容を学習できたので、次年度以降もこれを継承していく。 基本的生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る。 学科と学年の連携を強化し、共通認識をもって指導に当たっていく。
		「地産地消」・「圃場から食卓まで」の取り組みを進めるために改良普及センターをはじめ諸機関と連携し情報の収集や新しい知識技術の習得に努める。	A		
	基本的生活習慣および社会的な生活習慣の確立を目指す	授業開始時における服装頭髪指導、日常生活における挨拶、言葉遣い、マナー指導等、職員間の意思統一を図り徹底し進路指導につなげる。	B	B	
	科学的思考と問題解決能力を育成する	1年生は「農業と環境」、2年生は「農家生活管理」3年生は「課題研究」・「農家生活管理」で学習発表会を実施する。	A		
各種の資格取得に向け、指導を充実させる	専門的な資格に加え卒業までに日本語ワープロ検定および表計算検定3級を取得させる。さらに希望者には上級の検定資格の取得指導を行う。	A	A		